

使用済みペットボトルの再利用先が広がってきた。これまで繊維や卵容器への利用が中心だったが、サントリーホールディングスなどは付加価値の高い飲料容器に利用する技術を導入し始めた。中国の活発な買い付けでペットボトルの輸出価格は高騰している。資源の海外流出に歯止めがかかる可能性もある。

飲料容器への利用で先行了たのがサントリー。新しい再生技術「メカニカルリサイクル」を5月に導入した。粉碎したボトルを「アルカリ水で洗浄し真空・高温で不純物

ペットボトル 再利用先拡大

真空・高温で内部の不純物を取り除く(協栄産業の小山工場)



飲料会社、新技術を導入

を取り除く」(再生原料メーカーの協栄産業) 栃木県小山市) 仕組み。コストはほぼ新品並みだ。サントリーは2012年末をめどにボトル材料に占める再生材料の比率

を2割に高める。榛名工場(群馬県渋川市)で生産するウーロン茶容器で初導入。来年は緑茶や機能性飲料に広げる。日本

術評価を進めている。キリンビバレッジは成形の適性試験を始め、安全性試験の方法も検討中だ。中国は日本の回収ボ

購入している。再生品(粉末・洗浄済み)の対中輸出は増加。輸出価格は1.9万3千円強と昨年末から3割上昇した。法律に基づいてリサイクルを受託する日本容器

の回収ボから3割上昇した。法律に基づいてリサイクルを受託する日本容器

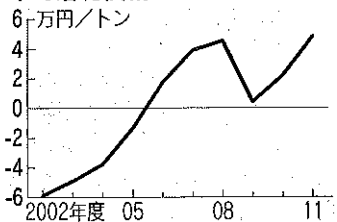
繊維が約3割。このほかの流

中国流出に歯止めも

包装リサイクル協会(東京・港)の今年度の平均落札価格は過去最高の1万4千7860円。輸出価格より安く調達できる

食品衛生法は再生材料の安全基準を特に設けていない。飲料会社は再利用に及び腰で、分子レベルまで新品と同じにした材料だけを使っていた。だが厚生労働省などは食品包装への再利用に関する安全指針を大筋で固めた。米食品医薬品局(FDA)の安全基準に基づいて、原材料や工程管理

日本容器包装リサイクル協会の平均落札価格



(注)2002~05年度は処理費用として業者が受け取った額